

議会を傍聴してみませんか？

手続きは簡単。
受付簿に名前を書くだけ！
第3回定例会は、
令和5年度決算の
審議が行われます。



【令和6年第3回定例会日程（予定）】

9月	5日(木)	招 集 日
	9日(月)	一 般 質 問
	10日(火)	一 般 質 問
	13日(金)	決算特別委員会
	17日(火)	決算特別委員会
	19日(木)	最 終 日

※日程は変更になる場合があります。

これでいいのか！ 町政

一般質問

一般質問は議員が町政全般について、現状や方針を問うものです。
一人あたりの持ち時間は答弁を含めて50分間です。今定例会では10人が登壇しました。
掲載している内容は質問者自身が要約し、広報広聴特別委員が校正したものです。
一般質問の映像を配信しております。また、会議録もホームページでご覧いただけます。

一般質問の映像
(YouTube)



会議録



します。

答 不正額の返還で全額返還という事態は回避されました。町では中山間地域等直接支払交付金に関わらず、行政区が抱える課題については要望の早期実現に向けて対応

問 地区が本来事業として受けることができた、1,600万円もの逸失利益についてどう答える。

答 集落協定が保管すべき書類を確認しており、指導監督に不手際は無かったと認識しております。町のもう一步踏み込んだ検査等があれば、より早期の不正判明につながっていた可能性もあり悔やまれます。

問 確認をどう行ったのか。

答 多額の繰越金と通帳の残高突合せをなぜ行わなかったのか。架空工事を見抜けなかったのか。工事個所の確認をどう行ったのか。

問 朝立地区中山間地等直接支払交付金事業の、会計担当者による不明瞭会計処理。町の指導監督が適正になされていれば、早く不正が判明したのではないかと、町の検査が適正だったのか。



いがらし かずお 議員
五十嵐 一夫

補助金返還！
町の検査は適正だったのか
踏み込んだ検査不足、悔やまれる

答 まずは関りを持つことが必要であり、ご家族、顕彰会の協力を得ながら関係構築に取り組んで参ります。



墓所の明示がありません

問 先生の愛弟子「坂本冬美様」が毎年、先生が眠る法界寺に墓参に訪れているようだ。先生の縁を活かし坂本冬美様に親善大使、先生と絡めた歌謡祭の実施などを検討してはどうか。

答 顕彰会は現在停止状態ですが、新たな体制づくりを支援し、設立当初の目標でもある記念碑建立、「歌謡祭」の開催等、ともに考え、実現に向けて支援していきます。

問 郷土が生んだ偉大な作曲家「猪俣公章先生」をたたえ、記念碑建立や、先生作曲の歌を愛好者が歌う歌謡祭を定期的に開催する考えはないか。

答 猪俣公章先生を讃えよう
顕彰会の体制づくりを支援する

問 郷土が生んだ偉大な作曲家「猪俣公章先生」をたたえ、記念碑建立や、先生作曲の歌を愛好者が歌う歌謡祭を定期的に開催する考えはないか。



たかく としあき 議員
高久 敏明

人口減少・多様化

ニーズに合った行政サービスを！

行政DXの推進、自治体連携を推進し
行政サービスの維持向上を図ります

問

急激な人口減少、住民ニーズの多様化・高度化に対応した行政サービスを維持向上するため、行政DXを推進すべきと考えるが現状について伺う。

答

また、より住民に寄り添ったサービスを提供するために、地域コミュニティセンターにおいて行政手続きができるようにする考えはないか。

オンラインによる行政手続きが可能となれば、多くの住民の方の利便性向上と業務の効率化にもつながると認識しており、導入に向け検討してまいります。

また、コミュニティセンターで行政手続きが行えるようになれば、より住民に近い行政サービスの場として意義があるものと認識しています。



三春町役場に設置されていた、住民票等が発行できる複合機

周辺自治体、各団体、民間企業等との連携強化について
業務の効率化と行政サービスの維持に重要であると認識している

問

今後、行政サービスの質を維持向上していくためには、周辺自治体、各団体、民間企業等と協力し、行政と民間が強みを生かし連携して住民サービスの満足度を向上させることが重要であると考えているが、現状と町の見解を伺う。

答

現在「両沼地方町村会」で災害対応の協定を締結するなど広域的な連携を進めています。今後も町が直面する課題解決の有効手段である市町村連携や産学官連携について積極的に取り組み、行政サービスを維持向上させ、住民満足度の向上を図ってまいります。



ものえ まさひろ 議員
物江 政博

配布文書が多すぎる…

時代に沿った情報提供を

区長・自治会長の方々の負担軽減を図っていきます

問

月二回、配布する文書の量が多いのではないかと。町から区・自治会へ配布する文書については、月2回に分けて実施しておりますが以前より区長・自治会長の方々から配布回数や文書量の削減を求める声をいただいております。

答

その対応としまして、単独で発行していた文書を定期発行の町広報紙や情報かわら版へ記事をまとめることにより、文書量の削減を行っております。

今後は、町の情報発信についてLINEなどの電子媒体を活用し配布物の削減に努めてまいります。



この他にも配布文書が…

問

未利用施設の利活用はあらゆる選択肢を検討します

答

旧坂下高校のグラウンドは、県からの無償貸与により、その維持管理をバンビに委託し、令和4年9月からソフトボール専用コートとして活用しておりますが空き校舎の利活用は検討中であり現時点では、取得の有無も含め、その利活用方策については決まっております。

議員お質しのグラウンド以外のスポーツ施設として利活用の可能性のある施設としては、体育館・武道場・テニスコートがございます。体育館は面積は約830㎡で坂下南・東小、学校、及び中学校の半分程度の広さ、武道場は約390㎡で中学校武道場と同程度の広さを有しており、利活用のニーズはあるものと認識しております。



狭小な坂下町の水田



い が ら し ま さ や す
五十嵐正康 議員

担い手不足解消へ

圃場の大区画化・スマート農業の推進を！

持続可能な農業経営の確立を
目指します

問 大区画圃場が皆無の会津坂下町の現状をどのように改善していくのか。

答 作業の効率化や省力化を追求し、持続可能な農業経営を確立するためには、基盤整備は極めて有効な手段の一つであると認識しております。

大区画化実現のために、関係機関と情報共有を図りながら連携を強化し、調査・研究を重ねていきます。

問 スマート農業をどのように推進していくのか。

答 町独自の導入支援を検討していきます。

スマート農業が本町農業を将来にわたり持続可能な産業として確立するうえで、重要かつ必要不可欠な手段であると位置付け、国県等の事業を活用した導入推進を図るとともに、町独自の導入支援を検討して参ります。

さらに、町内には、農業者同士が連携し、安価で使い易いスマート農業機器を開発した身近な事例もあることから、今後はアイデアを出し合えるコミュニティを創設し、坂下オリジナルのスマート農業機器の開発や導入を推進していきます。

これも質問

「会津坂下町の米の『ブランド化策』を推進しよう
問我が町のDXをいかに推進すべきか



め ぐ ろ か つ ひ ろ
目黒 克博 議員

投票率向上へ！

投票しやすい環境整備を

広報紙・SNSの活用と、移動式期日前投票所の導入について検討して参ります

問 高齢者・障がい者に優しい投票所の改善及び対策について伺う。

答 高齢者・障がい者の方が投票しやすい環境整備として、町内十六箇所の投票所において、段差を解消するためのスロープの設置、車いすの配置や車いす用記載台の配置による、バリアフリー化が必要であると考えております。

次の選挙までに対応する為、早急に全ての投票所の再点検を行い、施設改修や備品購入に着手して参ります。



未来の町消防団はどつあるべきか

持続可能な消防団を確保するため、消防団のあり方について検討して参ります

問 年間行事等の見直しと、団員の負担軽減について伺う。

答 団員からのアンケートを実施しました。

その多くが「団員確保が困難」「休日等の行事が負担」「消防団活動の知識・技術不足」等の回答が挙げられています。これらの不安を解消する為にも、式典の縮小と災害時に必要とされる知識・技術を習得するための訓練や班域の見直し・災害時のみ出動する「機能別消防団員」の導入など、出動しやすい体制を検討し消防団活動を維持して参ります。



いがらしかこ
五十嵐孝子 議員

低所得者の暮らしを守れ！

生活に困った時の相談先の周知は

ご相談の内容に応じ利用できる
支援の提案をしております

問 経済が悪化し続け、貧困が進んでいる。生活保護は、日本にあるセーフティネットであり、憲法に定められた国民の権利の一つである。

その生活保護を使いやすいものにするために、町民に分かりやすく情報提供はされているか。

答 現在、生活に困った際の相談窓口について、特段の周知は行っておりません。

しかしながら、社会福祉協議会や民生委員、施設や病院の相談員など、関係機関からの情報提供は、町の担当窓口である生活課社会福祉係に連絡をいただくよう情報共有がされています。



また、生活保護以外にも、借金に関する相談であれば、無料法律相談や、今すぐに食べる物にも困っているという相談であれば、フードドライブの案内など、ご相談の内容に応じて利用できる支援の提案をしております。

町が抱える課題は庁舎問題だけではない
町民の福祉の向上のため、その他の施策にも注力してまいります

問 この町の抱える課題は、庁舎問題だけではないという有権者の声が散見されるが、町の考えは。

答 町が抱える課題は、新庁舎建設だけでなく、少子高齢化の進行、地域活動や産業における担い手不足、地域コミュニティの希薄化など様々であり、常に変化する課題に対応していかなくてはなりません。

町民の福祉の向上のため、その他の施策にも注力してまいります。



よこやま ちよ
横山 智代 議員

免許返納後どうしよう…

デマンドバス・タクシー運行の考えは

利用しやすい持続可能な地域公共交通体系を構築してまいります

問 高齢者が運転免許返納した後移動手段に不安、不満が多く聞かれる。デマンドバス・タクシー等の運行について町の見解を伺う。

答 町は高齢者に対するバス券の補助や、運転免許証の自主返納者へのタクシー助成券補助など、公共交通の利用促進に努めてきたところです。

現在、路線バスが通学や下校の間を中心にダイヤ編成をしているところで、通院や買い物手段として活用している高齢者にとって利用しにくいダイヤになっていると推測されます。この問題を解消するためには、日中の運行空白時間を埋める必要があり、その手段として、事前予約により運行するデマンド交通や町が独自で運行するコミュニティバスなどが考えられます。本町にとって最適な手段を検討しながら、取り組みについて調査・研究を進めてまいります。



生ごみを飼料・堆肥として利用を取り組みについて調査・研究を進めてまいります

問 家庭から出る「生ごみ」を飼料や堆肥などに利用し資源循環のまちづくりを考えられないか。

答 「生ごみ」を利用することは、地域の環境負担低減に大変意義のある取り組みと考えておりますが、「生ごみ」の特性としての腐敗しやすく保管できないことや処理施設の費用、生ごみだけの回収運搬の方法、飼料化・堆肥化した品質の確保など課題もあることから、解決に向けた取り組みと事業自体の採算性の確保について、引き続き調査、研究を継続して進めてまいります。

これも質問

町自給率向上、食料増産への取り組みは
町「アグロエコロジー」の普及を
町「食農教育」「食育教育」を通じて
農業、米の大切さの発信
町高齢者の補聴器購入の助成と「聞こえのアンケート」の実施を



2015年に氾濫した宮川と
浸水した細工名地区



さとう とうた 議員
佐藤 宗太

異常気象!!

水害対策の考え方は

河川管理者である国や県、消防署など
関係機関と情報共有し対応していきます

問 当町における水害対策は。

答 近年の気候変動による災害の
激甚化等を踏まえ、令和4年
度に防災マップを改訂し、各世帯に
配布いたしました。また、町が管理
する準用河川等については、毎年継
続的に堆積土砂の撤去や護岸の補修
等を行い、河川断面の確保に努めて
いるところです。

なお、発災の際には、各河川管理
者へリエゾン（※1）の派遣や排水
ポンプ車の出動依頼などを行うとと
もに、町消防団も含め関係機関連携
を図りながら、迅速に対応していま
います。

問 インクルーシブ教育（※2）
の現状と今後の取り組みは。

答 国が取り組んできた特別支援
教育の方針に沿って、長い間、
特別支援教育の充実に力を入れて参
りました。

現在進めている特別支援教育を一
層充実させていくことが、よりよい
インクルーシブ教育への段階的な移
行につながると考えています。

これも質問

町DXの取り組み状況は
町河川環境美化により災害リスクを
最小化する考えは

（※1）災害状況の収集や支援ニーズ等の
情報共有を図るために派遣される
職員

（※2）すべての子どもたちが同じ環境で
一緒に学ぶ教育。



おばた ひろし 議員
小畑 博司

地域計画策定に向けて

町として掲げるビジョンは

「集落の農地は集落で守る」を
基本に策定を進めます

問 物価高による生産資材や光熱
費の高騰で、農畜産業に従事
する方々の生産意欲が奪われていま
す。十年後を見据えた地域計画策定
にあたって、町としてのビジョンを
示すべきではないか。

答 集落農業を基盤とする本町に
おいては、目指したい集落農
業のあり方を、町、農業者、地域住
民が共有し、目標を実現するため
に、地域計画策定を進めています。

本町農業の主体である稲作経営を柱
に、多面的機能を将来にわたり、安
定的に維持・発展させていくという
方針の元、「集落の農地は集落で守
る」を基本に策定を進めてまいりま
す。

農畜産業への支援策と、新規
就農者の拡大策を示せ

現場の生の声を聞き、国・県・
農業者が一体となって取り組
みます

問 農畜産業を取り巻く現状を打
開し、持続的な産業とするた

めの支援策を示せ。また、親元就農
から新たな段階に入った新規就農者
を拡大するための施策について示せ。

答 国・県や関係団体と連携した
サポート態勢を強化し、指導・
助言などの支援を行ってまいります。

また、若手農業者を中心とした「次
世代農業者会」を立ち上げ、現場の
生の声を聞いてまいりました。そこ
で出された意見やアイデアを生か
し、新技術の導入、気候変動に対応
した品種更新、即戦力となる人材の
育成・確保などについて、農業者と
一体となって取り組んでまいります。



新規就農により作
付されたシャイン
マスカットの苗木

これも質問

町2050年に向けたゼロカーボン
策を示せ

町小学校や幼稚園・保育所の今後の
展望は

町中学生の部活動の広域支援を



さかい いくこ 議員
酒井 育子 議員

超少子化！

小学校統合の考えは

しばらくは、現状の教育施設を維持する考えです

問

平成29年から出生数の下降・減少が続き、令和5年度には、41人と未来に大きな危機感を抱いている。統合によって切磋琢磨とすこやかな成長と喜び・生きがいを感じることのできる教育環境づくりが重要だと思うが、後期振興計画に入れるべきではないか。

答

学校運営や施設等の諸問題も多くあり平成25年に統合し、11年が経過しました。子ども達は慣れ親しんだ教育環境で学習しております。

統合の検討を始めるには、複式学級・クラス替えが出来ない規模というガイドラインがあります。

今後の移住定住施策による効果と人口動態等を注視しながら、地域の将来像を全体的に構想して参ります。



問

子育て中の保護者の負担を軽減するためにも、政策形成、各種施策の取り組みの転換が重要と考えられる。

答

「認定こども園」へ移行し、幼児教育を一体化することで、保護者負担の軽減をする考えはないか。

令和7年度から5年間を計画期間とする「第3期会津坂下町子ども子育て支援事業計画」の策定中であり、保護者のニーズを把握し、負担軽減を含めた安心して健やかに子どもを産み育てられる環境整備を実施して参ります。



これも質問

町若者移住施策の基本的な方向性は、旧越後街道・北裏通りの整備の方向性は

町を離れても故郷を想う 会津坂下会総会に参加しました



6月2日(日)に東京都千代田区にある「主婦会館プラザエフ」において総会が開催され、5年ぶりに議会として参加してきました。総勢75名で、終始和やかな雰囲気で大盛況に行われました。

最後には全員で会津磐梯山が流れる中、会場一杯に広がって盆踊りを踊り、幕を閉じました。



学ぶ

議会の見える化のために

福島県町村議会議長会主催広報研修会

7月2日(火)、福島市のとうほう・みんなの文化センターで広報研修会が開催されました。



読んでもらえる、分かりやすい「議会だより」を作るには、読者を引きつける見出しや写真が大切であることを勉強してきました。

これからも、議会の見える化と住民の方々との信頼関係をつくっていくため、研修会



で学んだことを「議会だより」に活かしていきます。